

## &lt;平成20年度中間期の決算概要&gt;

## 233億円の黒字

平成20年度中間期の主要3勘定（住専勘定、特例業務勘定、53条勘定）の回収額は住専勘定302億円、特例業務勘定531億円、53条勘定103億円となり、合計937億円（前年同期1,497億円）となった。

（参考）特例業務勘定：破綻金融機関等からの譲受債権の管理勘定  
53条勘定：健全金融機関等からの買取債権の管理勘定

これら勘定の損益についてみると、特例業務勘定及び53条勘定は、引き続き相当の取立等益を確保し、これから経費と引当金の繰入等を控除した預金保険機構への納付金算定額は、特例業務勘定300億円（同518億円）、53条勘定57億円（同209億円）となり、納付金交付後の中間純利益は、ほぼゼロとなった。

一方、住専勘定については、平成11年度以降貸倒引当金の繰入れを主因に赤字基調にあったが、平成17年度以降、貸倒引当金の繰入額の減少等により、黒字基調に転じており、当中間期においても税引前中間純利益226億円（同177億円）の黒字を計上した。

この他、企業再生業務、信託業務、民間サービス業務等のその他業務においては税引前中間純利益で3億円の黒字を計上した。

以上の結果、当社全体の中間期における損益は住専勘定の黒字を反映して、233億円の黒字（同175億円の黒字）となり、財務状況は改善した。

20年度中間期の決算の概要は以上のとおり。

注) 財務諸表上の金額は億円未満切り捨て、その他は四捨五入した計数である。

< 住専勘定の二次損失について >

住専勘定の二次損失は当中間期に202億円発生し、累計では1兆873億円となっている。この二次損失については、住専法に基づき、その2分の1に相当する5,436億円について、金融安定化拠出基金から、助成金の交付を受けている（未収助成金計上額：4,217億円）。

また、各年度における二次損失の2分の1の相当額が回収益の合計額を上回った額の累計額である3,339億円については、政府の補助金の額の範囲内で預金保険機構より損失補てん助成金を受けることができることとなっているが、現段階では同助成金の交付は受けていない。